

明石市長選挙 立候補予定者による公開討論会

日時 3月29日(水) 午後7時～9時00分

会場 明石市民会館 中ホール

出演 立候補を予定する新人3名の方々

入場無料

市民自治あかしは、4月16日告示、23日投・開票の明石市長選挙に立候補を予定している3名の方々を招き29日夜「公開討論会」を開催します。市長選挙では2011年以来毎回開催しており、今回は5回目になります。

今回の明石市長選は、泉市長が市議への暴言問題の責任を取って今任期限りで退任を表明することを昨年10月に表明したあと、自らの政策を継承発展してくれる「後継者」を擁立することを明言、後継者が市政運営をしやすくなるように市議会議員も多数擁立することを“宣言”しました。その後立ち上げた政治団体「明石市民の会」から12月には6名の市議候補の擁立を発表し、今年1月末にはうち1名を県議候補に変更するなど、市長、市議、県議をセットにした異例の後継体制づくりを進め、選挙の結果が注目されてきました。

立候補を表明している方々(表明順)

はやし けんた
林 健太氏 (40) 明石市議

なかがわちようぞう
中川 暢三氏 (67) 元・加西市長

まるたにさとこ
丸谷 聡子氏 (59) 明石市議

市長選に3氏が相次ぎ立候補表明、29日の公開討論会で舌戦スタートへ

最初に名乗りを上げたのは、3月7日に記者会見した林健太氏(明石市議、40歳、自民党真誠会)。2006年に明石市に転入し、青年会議所活動などを通じて市議になり2期目。会見では手厚い子育て支援など現市政の継続と発展を訴えている。この2年余は泉市長と厳しく対立してきた自民党真誠会に属し、同市長がSNSで「反対派の急先鋒」と発信している。

二人目は23日に記者会見した中川暢三氏(元加西市長、67歳)。2005～2011まで加西市長を2期務めたあと、公募による大阪市北区長も務めた。この間東京や兵庫の知事選、大阪や神戸の市長選など数多くの選挙に立候補し「志があれば誰でも立候補できる選挙条例」を提唱。明石では「子どもにツケをまわさない」財政政策などを訴えている。神戸市在住。

三人目は25日に泉市長が自らの後継者として擁立を発表し、出馬表明した丸谷聡子氏(明石市議、59歳、かけはしSDGs)。江井島で居住32年の地域活動や高校生時代から取り組んできた日本野鳥の会や自然観察、環境教育コーディネーターの活動をしながら、市議2期目。議員活動の傍ら博士の学位も取得し“多足わらじ”の活動から市民派議員の全国議員ネットでも人脈を広げる。

討論会では、市民が望む市民の政策である「市民マニフェスト」を提案し、候補予定者の意見を聞きます。公開討論会は明石市の障害福祉課の協力を得て、手話通訳と要約筆記も行います。聴き取りが不自由な方も安心してご来場ください。事前予約不要。無料

市議選公開討論会に9名の立候補予定者が出席



「議員のあるべき姿」など4つの質問に熱い訴え

今回の市議選には、定数30に対して40人を超える立候補が予定されており、現職を上回る新人攻勢で厳しい選挙が予想されています。

討論会は連絡先等が判明した40数名に案内状を出し、一人ひとり出欠を確認したうえで現職6名と新人・元職6名の出席を予定していましたが、当日になって体調不良等から3名の欠席があり、9名での討論になりました。議会の過半数を占める自民党と公明党の参加がなかったことなどに、参加した市民の中から疑問の声も出されました。

会場の一般参加者は52名。会場の広さからすると閑散とした光景で、参加者のアンケートなどからも「もっとPRに工夫が必要」などの意見もいただきました。

2時間30分に及んだ討論会の全録画はYouTubeで放映中です。下記のURLまたは市民自治あかしHPからご覧ください。 <https://youtu.be/eIwrma7VUbg>

討論会に出席した立候補予定者(敬称略)

◇現職

竹内きよ子
辻本達也
丸谷聡子
吉田秀夫

◇元職、新人

中西礼皇
山中裕司
金尾良信
すみ和馬
岩本博吉

討論会では用意した4つの質問(右欄参照)に加えて、会場から回収された12人の質問票から7人の質問等を4問にまとめて登壇者に回答を求めたところ、延べ16人がそれぞれ回答を返しました。

議会運営に関わる質問は当然ながら直接関わってきた現職は具体的な話ができた反面、実経験のない新人には答え辛かった面がありました。市民マニフェストの感想については、それぞれの関心事項に関して語られたことから、多様な政策を聴き比べることができました。

会場参加者から18人のアンケートを回収し「候補者の考え方や違いが肉声で聴けて良かった」「こんな機会をもっと多くの人が聴けるようにしてほしい」など、積極的な意見が寄せられました。

3月市議会閉会、修正案や請願採決で最後まで対立くっきり

明石市議会は24日に最終本会議を開き、新年度予算案などを採決して閉会しました。自民党真誠会や公明党等から「大久保駅南ロータリーの複合施設建設関連予算」の削除や「犯罪被害者らへの支援金条例」改正案について修正案が提出され賛成多数で可決したほか、工場緑地緩和条例の改正案を否決しました。

また、市民自治あかしが提出した「新庁舎建設に関する特別委員会の再設置」を求める請願や「里地・里山・里海保全条例制定」の請願も、自・公等の多数派とその他会派の対立状況を浮き彫りにして、いずれも不採択になりました。

今期市議会の改選以降続いてきた議会内部の対立構図は、最後まで続いたこととなります。

①今回の選挙に立候補される動機について

なぜ、議員をめざすのか？あるいは現職の方はなぜ再選をめざされるか・新人議員としてやりたいこと、当選後に果たしたい「最も重要な課題」等についてお話しください。

②議会基本条例について

明石市議会は2014年に議会運営の最高法規として「議会基本条例」を施行されています。この基本条例制定に先立って施行された「自治基本条例」制定に際しては、議会自らが「議会のあるべき姿」「議員のあるべき姿」を発表されて、議会基本条例策定の基本ベースになっています。議会基本条例とそこに規定されている議会運営のあり方や議員のあり方について、どのように考えられていますか？

③議会および議員と市民の関係について

議会は選挙を通じて「市民からの負託」によって、行政をチェックし、市民のニーズを的確に把握して政策提言、政策立案をするとされていますが、議会と市民、議員と市民の関係について、どのように考えられていますか？

④「市民マニフェスト」を読まれたご感想について

「市民マニフェスト2023年版」を読まれたご感想を聞かせてください。